

Asia Pacific Next Generation camp 参加報告書

慶應義塾大学環境情報学部 3 年

柴田 巧

私は、2002 年 08 月 27 日から 30 日の間、上海にて開催された『第 2 回アジア太平洋次世代キャンプ(APNG Camp)』に参加しました。

急速に発展したインターネットを享受している地域では、ビジネスや教育、コミュニケーションが活発に行われるようになっていきます。その反面、本 camp に参加することで、インターネットの利用が出来ない地域との情報格差 (Digital divide) が大きく開いていることも実感しました。私は、本報告書において、上記点のように APNG camp に参加し直接意見交換し感じた点を、参加前に考えていた志望理由に沿ったかたちで、報告したいと思えます。

- 1) 急速に進んだインターネットを利用してきた海外の若者、特に 10 代から 20 代前半の若者と意見交換をし、日本のインターネット利用、文化、ポリシーをどう築いてゆくべきか考えたい。

本 camp では、インターネットを利用して、若者のアイデアから、ビジネスプランを立てたり、音楽 CD を作り販売したりしている韓国 HAJA センターの方々や、大学間ネットワークを構築しインターネットを教育に活かしているタイ UNI-NET の方々など精力的に活動する多数の若者が集まりました。特に UNI-NET など、そのプロジェクトの必要性から自助努力でバックボーンの広帯域化や、海外へのインターネットリンクの広帯域化を進め、プロジェクト発展の求心力としています。日本においても特に大学間や自治体において研究ネットワークという名目で広帯域のネットワークが存在しています。しかし今後インターネットが根付き、国民一人一人がビデオコンテンツ等を発信するコンテンツ時代となった時、必要性から自助努力で広帯域化を進めてきたプロジェクトが、その段になって必要な帯域が確保できず、自らまた広帯域化を進めなくてはプロジェクトが発展しない、というような公正性が保たれない事態になってはならないのではないかと感じました。そのような事態を回避するため、中立な立場において、特に大学や JPNIC 等で国内のトラフィック内訳やインターネットを利用するプロジェクトを経年で記録し、その時々にあったポリシーを考え、公に提案していく必要があるのではないかと考えました。

- 2) インターネットなどの技術がビジネス界を革新的に変えると考えていた時代を見て、感じていた若者と集い、インターネットとビジネスの関係を考え直したい。(促進剤と

してのインターネット、技術)

最近感じる事なのですが、「技術がビジネスを変えるのか」と疑問に思うことがあります。インターネット発展に伴い、世の中に発表されてきた技術商品には、もちろん売れるものと売れないものがあるわけで、それらを見ると、商品の企画が大まかに2分されるのではないかと考えることがあります。それは技術企画をしている商品か、それとも商品企画をしている商品かだと思います。インターネットバブルのとき、私たちは見たこともない商品に新鮮さを感じて、一時はどんな商品でも購入しました。しかし目の肥えてきた今、売れる商品はユーザーフレンドリーで、使いやすく、安価で、楽しかったりする商品なわけで、そこでプラスアルファ、技術が促進剤となり大ブレイクしているのです。技術とビジネスを考えていると、インターネットとその上に載るコンテンツとの関係も相関するのかもしれないと思ったりもします。本campでは、インターネット上でしか考えられないコンテンツの運営をする若者が多かったというよりは、むしろこんなコンテンツをやりたいのだから、インターネットを利用するとどのようなメリットが発生するのだろうと考えている若者が多く、インターネットとその上にのるコンテンツの関係は、技術とビジネスの関係に近いのではないかと実感しました。特に前述の韓国HAJAセンターの方々の活動は、まさにインターネットをうまく活用している事例ではないかと思えます。私たちもその点について、考え、啓蒙していく機会を設けていくべきかも知れないと感じました。

- 3) インターネットは、物理的なインフラの制限をなくしてきましたが、私はアジアインターネットをひとつの地域として区切り、その上に載る教育、ビジネス、医療等を同じ質でアジア地域の人々が享受できるようなインターネット的で、横断的な、グローバルな政策のあり方も同年代の若者と議論したい。

私は、もう一人日本からNGに選出された Hongbo Shi shi@goto.info.waseda.ac.jp と共に Young cultural Network のWGに入りました。その中でも議論になったのですが、アジア各国がそれぞれ経済規模をあげていく努力をしているが、人口的に世界一のマーケットになりうるアジアマーケットを育て、そこを基準にビジネスできる環境を整える、もしくはアジア文化圏の中で人気を博したものを、今の欧米ハリウッドからという逆で、こちらから世界に発信できる基盤を整えるという努力をすることが、アジア各国が経済発展する一歩になるのではないかと考えています。その上で、まず私たちができることは、過去の歴史を冷静に見つめ、その上で私たちを理解しあえる環境を整え、努力することだと考えます。そのためには、私たちは Young cultural network を、インターネットを用い構築し、お互いを理解し、アジアマーケット、アジア文化というコンセンサスを生み出すことにあるのかと感じています。

以上、APNG camp に参加し、感じ、考えた点を志望理由に沿って報告いたします。
今後も継続して、APNG WG 内にて上記話題を議論し、日本においては問題意識を持ちながら、大学や JPNIC において少しずつでも変化の一步を踏み出していければと考えています。最後まで読んでいただきありがとうございました。

提案

今回の APNG camp に参加し、感じた改善箇所を列挙します。

- 1) キーノートスピーチは、もっと Next generation をドライブさせるようなスピーチをすべきだと感じた
- 2) 海、山で行うパーベキューキャンプのように、APNG camp においても前段知識を補う（料理の準備）時間が必要だと感じた。会議の前に 2 日ほどリサーチや、考えをまとめる準備期間、pre camp があってもよいのではないかと思う。その点で、APNGcamp は最低 1 週間の期間がほしい。
- 3) 母国に帰れば、常にネットワークを利用している若者が集まっているのだから、会議中もお互いがつながり、交流できるネットワーク環境と、アプリケーションを用意すべきであると思う。たとえば、IRC や共有フォルダの会議中の利用は認め、環境を整え、推奨してほしいと思う。

謝謝

Thank you